

|      |               |      |    |      |   |      |      |
|------|---------------|------|----|------|---|------|------|
| 科目名  | ソーシャルワークの方法 I |      |    |      |   | 単位   | 2.0  |
| 担当教員 | 大橋 徹也         |      |    |      |   |      |      |
| 授業形態 | 講義            | 開講期間 | 前期 | 配当年次 | 2 | 授業番号 | 3115 |

●授業のテーマ

ケースワークの理論と方法を学ぶ。

●到達目標

ソーシャルワークに用いられる方法の1つであるケースワークの理論と方法を理解する。4つの実践アプローチが説明でき、カンファレンス、事例研究の方法が説明できる。

●学習内容(授業概要)

ソーシャルワークにおける方法の1レパートリーであるケースワークには、いくつかの実践アプローチがある。本講義では、①問題解決アプローチ、②行動変容アプローチ、③課題中心アプローチ、④エンパワメント・アプローチの理論と方法の4つと、これらに必要なカンファレンス、自らの専門性の向上に必須となる事例研究の方法を取りあげる。これらを通してソーシャルワーカーに必要な技能を身につける。具体的には、利用者の抱える問題やニーズに即する実践アプローチの適切な選択と活用を理解する。

●学習内容(授業計画)

1. オリエンテーション/相談援助の理解
2. ソーシャルワーク領域の実践モデル
3. ケースワークの概念①
4. ケースワークの概念②
5. 問題解決アプローチの導入背景と特徴
6. 問題解決アプローチの理論と方法
7. 行動変容アプローチの理論と方法
8. 認知行動療法とSSTについて理論と方法
9. 課題中心アプローチの導入背景と特徴
10. 課題中心アプローチの理論と方法
11. エンパワメント・アプローチの導入背景と特徴
12. エンパワメント・アプローチの理論と方法
13. ケースカンファレンスの技術
14. 事例研究の意義と方法
15. 総括

●準備学習・事後学習の内容

出席毎に、①要点の説明と②質問ができるようにしておくこと。

事前学習：各自、テキストの記述を予め読むこと。

事後学習：学習後は、国家試験の過去問で確認すること

個別の課題を与える。適時：レポート提出すること。

●成績評価方法・基準

[単位認定の方法及び基準]

出席条件厳守。積極的な参加と静粛を求める。  
オリエンテーションにて説明する。  
テスト:80%, 参加:10%, レポート:10%。  
必要に応じて別途、各段階におけるテストも実施する。

●テキスト（必携）

平成 27 年 2 月 発行予定（最新版入手のこと）

①新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ 第 3 版、

②新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第 3 版。

上記 2 冊共に、編集 社会福祉士養成講座編集委員会、発行所 中央法規出版

●参考文献／その他

1. 各自、文献にあたること。
2. 適時、講義において、指示する

●履修上の注意

オリエンテーションへの出席が必須。

第 1 回目と第 14 回目の講義において、出席条件と評価など単位認定に関する事項を確認、理解すること。